参考資料

1-1 清 献一郎

『 幸せって何？ 』

学校名･名前 ： 西宮市立神原小学校 ・ 清 献一郎
実践教科 ： 学級活動
指導時数 ： 2時間
対象学年 ： 小学4年生 対象人数 ： 26人

1. カリキュラム

(1)実践の目的

○インドネシアの生活を知り、自分たちの生活と比較する。
○自分の幸せとは何なのか考えてみる。

(2)授業の構成

時限･テーマ･ねらい	方法･内容	使用教材
1時限目 インドネシアの文化を知る	･インドネシアの文化を知る	サロン、バティック 写真
2時限目 幸せって何？	･インドネシアの様々な生活を知る	写真

2. 授業の詳細

1時限目 「インドネシアの文化を知る」
インドネシアの文化として、異文化であるイスラム教の世界と衣食住を伝えた。

① サロンという男性が着用する巻きスカートをはいて教室に入っていく。子供たちは、スカートは女が着用するものだという先入観ですごく違和感を持ちながら授業がスタートする。

昼下がり

② 男子トイレの写真から・・・

空港のトイレ

JICA事務所のトイレ

③　食べ物の写真から・・・

ナシゴレン
（インドネシア風焼きめし）

ホームビジット先の昼食

ナシゴレン
（インドネシア風焼きめし）

カレー味のスープ

サテ
（串焼き）

ミーゴレン
（インドネシア風焼きそば）

◎児童の反応
- 男がスカートだなんて不思議だ。
- 文化が違うと普通が変わるなんてびっくりした。
- トイレの便器に触るなんてちょっと汚いな。
- おいしそうな食べ物ばかりだけど、味が濃そうでいっぱいは食べられないかも！
- 日本食もいいけど、インドネシア料理も良さそう。食べたいな！

■所感

基本的に児童たちは、楽しそうに学習を受けていた。写真を見せると食い入るように見ていて、児童たちが他文化に対して非常に好意的な受け止め方をしている。日本に比べて…というようなネガティブな印象を感じておらず、インドネシアっていい国だという印象を強く受けたようである。

ただ、写真の提示に関しては、数多く見せることよりもじっくりと考えながら見せることでより強く印象付けることになるのではと思った。今回はあれもこれもとダラダラ見せてしまい、旅行記のような形態になってしまった。

2時限目　「幸せって何？」

インドネシアのスラム街やストリートチルドレンについて知り、自分の生活を振り返ってみた。

①　スラム街、ストリートチルドレン更生施設での様子の写真を見る。
②　自分の生活を振り返り、自分の幸せって何なのか考える。

街の少女

微笑む少年

笑顔の三姉妹

たたずむ親子

街の風景

日々の生活

◎児童の反応
・自分たちって恵まれている。
・こんな生活をしている人たちがいるなんて・・・。
・勉強になった。
・インドネシアに興味が出たし、行ってみたい。
・僕も何か力になることができないかな。

③　この２時間の学習を振り返って、「幸せ」などいくつかのテーマで作文を書かせた。

自分のしあわせとは

先生に「あなたのしあわせって何？」と言われた時、少しの間、頭が真っ白になりました。そんな事を考えたことがあまりなかったからです。ぼくはふだんから楽しく生活しているので、しあわせというのが当たり前になり、さらに上のしあわせをもとめていました。でも、よく考えたら、しあわせはいつもそばにありました。ごはんを食べること、家族がいること、家があること。当たり前のようだけど、もしそれがある日とつぜんなくなってしまったら…。それをふりかえって、「あれがあった時はよかったな。」、「あれがもどってこないかな。」と思うだろう。そして、当たり前だったことがしあわせに思えてくると思います。だから、当たり前なことも実はしあわせなのです。だから、いろいろなものにかんしゃすることが大事だと思いました。

ぼくがしあわせと思うことは、「生きていること」です。生きているから、家族やなか間がいる。家がある。ごはんが食べられる、などのしあわせがあるし、それを感じることができるからです。だから、しあわせの下にある「生きている」ということがしあわせだと、ぼくは思いました。

わたしのたからもの

小さいころから自分のたからものなんて考えたこともありませんでした。一年生のころ、「わたしのたからもの」のような題で作文を書かされたけど、手放したくないほど大切なものはありませんでした。でも、今はあります。家族や友達、そして自分がせいいっぱい生きているということです。なぜなら、せいいっぱい生きないと、せっかくの命なのにつらいです。わたしは、みんなと一緒にせいいっぱい生きていきたいと思っています。

自分のしあわせ、自分のたからもの

「あなたのしあわせとは？」、「あなたのたからものとは？」

しあわせとは、さいしょゲームなどをいっぱいすることなどだなって、そう思っていた。だけど、先生の授業を聞いていると、しあわせというのはゲームなどがいっぱいできることが、しあわせではなくて、自分のしたいことということが分かった。本当にしあわせなのは、例えば、みんなといっしょにごはんを食べられること。そういうのがしあわせなんだと初めて知った。

だから、自分のしあわせはこのクラスになったこと、自分に少しだけだけど勇気が持てたこと。そして、一番しあわせなのが、自分がこの世界に生まれたこと、それが今の自分のしあわせです。

たからものは、おもちゃだと思っていた。けれど、4年1組になってみて、たからものはおもちゃとかではなくて、本当は命とかそういうものが、たからものだと今ではそう思えています。だから、自分のたからものは、クラスみんなの笑顔、命。その二つが大切です。

これからの自分の生き方

わたしのしあわせ。それは、みんなといっしょに笑えること。いっしょにいられることだと思います。いくらゲームやテレビを見たって、一人だったらつまらない。友達や家族がいるから楽しいと思います。一人でいたって、その場だけ楽しいだけです。

これからの自分の生き方。今のわたしをふりかえってみると、世界にはわたしたちがしていることをやりたくてもできない人もいるし、学校が行けない人だっている。それなのに、私は食べ物や物を大事にしてこなかった。だから、これからはわたしもふだんから心がけていこうと思います。こんな風に考えるのも、今まで大事なことを考えてこなかったからだと思います。　わたしのたからものは、やっぱり友達や家族だと思います。せっかく笑えるチャンスとかがあるのに、今を大切にして、後でこうかいしないようにしたいと思います。この学習を通して感じたこと、それはみんな今を大切に生きることだと思います。私も目ひょうを持って今を大切に生きていこうと思います。

インドネシアの勉強を通して

私のたからものは家族です。家族は、私の悪いところもいいところも知っていて、わたしがなやんでたらいっしょになやんでくれたりします。だから、わたしのしあわせは家族といるときです。

インドネシアは行ったことなかったので、遊ぶところがいっぱいのきれいな国だとそうぞうしていました。だけど、写真を見ると自ぜんが多くて遊ぶところはそんなになくて、きれいな国だけが当たっていました。男の人がスカートをはいてるなんて、さいしょは変だなとおもっていたけど、私はまちがえていました。インドネシアの人たちはそれがふつうのなのに。変だなと思っていたわたしが変なんだと思いました。

3. 成果と課題

成果として、恵まれた環境で生活をしている日本の子供たちに、インドネシアの子供たちの生活を知ることはとても意義深いものであった。人々の暮らしだけでなく、インドネシアの子どもたちの目を見せることができたことは、私自身良かったのではないかと感じている。自分の生活を振り返るきっかけとなったことと思う。

「幸せとは？」という大人でも難しいテーマを掲げ、当初どうなるかと心配はしたが、写真というリアリティー溢れる教材の持つ力ではないかと思った。

課題として、小学校では、授業時数や年間指導計画が学年ごとに決められていて、その中に個人的に授業実践を入れ込むことが非常に困難であった。学年での連携を必要としているため、全クラス共通の授業を行うか、学級活動を通して行うしかなかった。ただ、学級活動もやるべきことがあり、少ない授業時数の中でのやりくりを必要とした。今回この学年は、昨年もインドネシアの授業実践があったため、インドネシアについての学習を学年全体で取り組むことはできなかった。